



▲中学生の部最優秀賞 白駒多央さん (白里中1年)



▲中学生の部優秀賞 三上加那子さん (白里中2年)

きれいな川を未来へ残そう
 真亀川をきれいにする協議会ポスター展

▼期間 12月12日水～26日水
 ▼場所 役場1階ロビー



生き物の引越しのお手伝い

瑞穂小4年生による環境保全



瑞穂地区では、農業生産の向上と経営規模の拡大による農業構造の改善を図るため、昨年10月から県営事業による経営体育成基盤整備事業の施工が進められています。11月1日、この工区内の農村環境の保全を図ること

▶生き物を探す子どもたち

県指定の史跡「宮谷県庁跡」となる本國寺を会場とした文化フェスタが10月27日開催されました。この日の天候は台風による荒れ模様。あいにくの天候にもかかわらず、ソロシンガートとして活躍するミネハハ(松木美音さん)のリサイタル「言葉を現代に伝える」をひと目見ようと、本堂には溢れんばかりの観客が集まりました。

愛の種をまくミネハハ

文化フェスタ in 本國寺

方にとって懐かしい歌を披露。次第に激しさを増す風雨の音も堂内には届かず、ミネハハのやさしい歌声は、本堂のすみずみまで響き渡りました。また後半、愛の祈りの歌で披露したお寺のかねに似た音の楽器を打ち鳴らしながら歌う姿は、愛の巡礼のよう。お母様の最期の言葉「愛の種をまく人になれ」を忠実に再現し、聴衆からはミネハハの愛が深いため息として漏れ、澄んだ歌声に酔いしれました。

生き物との関わり合いについて観察と体験を通して学習しよう、瑞穂小学校4年生108人と瑞穂環境保全会会員、地元工区役員、県・町職員などが参加し、水の生き物の引越しが行われました。

生徒の中には「生き物はあまり好きじゃないけど、かわいそうだから頑張って捕まえて、助けてあげるの」と話す子も。また、「バケツの中にザリガニとカエルを一緒に入れたらけんかしないかな」と心配を漏らしながらも約1時間半あまり、ザリガニやカエル、シ、カエル、カメ、ドジョウなど多くの生き物たちをバケツに移しました。

その後、生き物の種類や数を確認した後、生徒たちは貝類や小さな魚類を、昨年既に施工を終えた下流の水路へ放流。小学生は午前中で体験学習を終了しましたが、引き続き工区役員や県職員などは、午後も作業を継続し、保護したへらブナなど大型の魚類を近くの天神池に放流しました。今後、生き物に配慮した整備が計画されていることから、工事が進められ、営農しやすい田んぼと生き物の住みやすい環境が調和し、生き生きとした地域となることでしょう。



▶観衆を魅了したミネハハのリサイタルの様子



▲それぞれの考えを披露するパネリスト

地域の明日を考える

東金市・大網白里町・九十九里町 地域づくりシンポジウムが開催

「わたしたちのまちの魅力を高めたい」その思いを込めて、地域の将来を住民が自ら考え、市町村合併の理解を深めて地方分権時代の魅力ある地域づくりを議論する契機となるように、大網白里アリーナで11月17日、東金市・大網白里町・九十九里町地域づくりシンポジウムが開催されました。

このシンポジウムには3市町の住民など381人が参加。東京大学公共政策大学院の森田朗院長による地域づくりと千葉県将来をテーマとした基調講演に、参加者は真剣に耳を傾け、終始、メモを取る姿も多く見られました。

また、その後のパネルディスカッションでは、地域づくりに市町村合併が有効な手段であるかどうか、パネリストがそれぞれの意見を披露。魅力あるまちへの夢や思いを語り合いました。

料理 簡単おやつ

手作りのおやつは、簡単なのが一番。フロマージュは熟成させず、乳酸発酵のみの牛乳のフレッシュチーズです。低カロリーでカルシウムもとれます。



フルーツフロマージュ

- 材料4人分
- フルーツミックス缶詰……………100g
 - フロマージュブラン(フレッシュチーズ)……………1パック
 - ジャムなど……………適宜

- 作り方
- ①フルーツミックス缶詰はサルにあげ、汁をきる。
 - ②①のフルーツを4つの器に盛り付け、フロマージュブランを上からかける。
 - ③お好みで、ジャムなどをかける。

大収穫にはほほ笑むさつまいも

季美の森幼稚園芋掘り体験



▶掘り出したサツマイモに笑みを浮かべる子どもたち

平成16年の開園以来、農業を通じてさまざまな交流を生んできたあおぞら農園。今年も秋の風物詩赤トンボが、あちらこちらで飛び交う秋を迎え、いよいよ収穫時期となった畑で、園児約90人が10月22日と23日の両日に、芋掘り体験を行いました。

季美の森幼稚園では、あおぞら農園の1画を使い、園児たちに楽しみながら作物への関心を深め、収穫の喜びを味わってもらおうと、サツマイモを育成。園児たちはこまめに管理されてきた畑で、両手を真っ黒にしながらも、夢中

にサツマイモを掘り起こしました。中には、なかなか掘り起こせず、先生の手を借りてやっとサツマイモを手にする園児も。園児たちは、苦勞して手にしたサツマイモを秋空に高く掲げ、満面の笑みで「やっ、とれた!」とはしゃいでいました。

楽しい芋掘り体験は1時間余りで終了。収穫を終え、たくさんサツマイモが集められたダンボールはどつしりと重く、園児たちの帰り道の足取りは、とても軽いものとなりました。

そして、収穫したサツマイモは幼稚園に持ち帰った後、お土産としてそれぞれの家庭に配られました。